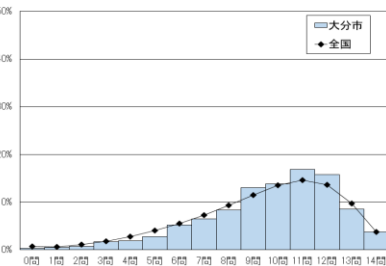
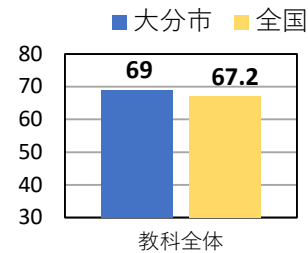


平均正答率（％）

正答数の度数分布

過去3年間の領域別平均正答率（％）



学習指導要領の内容			言葉の特徴や使い方に関する事項			情報の扱い方に関する事項			我が国の言語文化に関する事項			話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと		
実施年度・学年等	年度	学年	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差
R3	小4	市	73.0	74.0	-1.0	66.6	64.4	2.2	89.2	86.2	3.0	63.1	63.4	-0.3	56.8	59.6	-2.8	69.8	67.1	2.7
R4	小5	県	74.4	72.8	1.6	63.0	59.1	3.9	70.5	68.2	2.3	64.3	60.7	3.6	59.7	48.6	11.1	75.4	73.3	2.1
R5	小6	国	72.7	71.2	1.5	64.2	63.4	0.8	-	-	-	76.2	72.6	3.6	28.1	26.7	1.4	73.3	71.2	2.1

問題作成の趣旨（文部科学省作成資料より）

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。

課題が見られる問題について

◆考えの形成、記述について

領域	評価の観点			問題形式		
	知・技	思・判・表	態度	選択式	短答式	記述式
書くこと		○				○

実施学年等	小学校第5学年次（R4実施）	小学校第6学年次（R5実施）※今回																
出題の趣旨	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫することができる。	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。																
実際の問題（一部）及び正答率	<p>新聞係が、クラスの人の活躍を学級新聞で紹介するという設定のもと、トリアスロン大会に参加した川口さんの取材メモを用いて、新聞に載せる文章を書く問題。</p> <p>正答の条件としては、次の4つが挙げられる。 条件1：7行から、9行の間で書く。 条件2：2つの段落に分けて書く。 条件3：1つ目の段落には、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした（何をした）」のかを文章で書く。 条件4：2つ目の段落には、川口さんの話を取り上げ、その話に対するあなたの感想を書く。</p> <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>59.7%</td> <td>48.6%</td> </tr> </table>	大分市	全国	59.7%	48.6%	<p>【川村さんの文章】のグラフ</p> <p>【カード④】 7月20日 【農家の石山さんのお話】 ・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。 ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。 ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。</p> <p>【カード⑤】 7月21日 【学校でできる解決方法】 ・雑草取りの回数を増やす。 ・雑草取りの人数を増やす。</p> <p>総合的な学習との関連を図り、学校の田んぼで取り組んだ米作りについての文章を書くという設定のもと、記録していたカードの情報とグラフを用いて学校の米作りの問題点とその解決方法について書く問題。</p> <p>正答の条件としては、次の3つが挙げられる。 条件1：問題点については【川村さんの文章】のグラフと【カード④】のそれぞれから分かることを書く。 条件2：問題点の解決方法は【カード⑤】をもとに書く。 条件3：60字以上、100字以内で書く。</p> <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> <th colspan="2">※無解答率</th> </tr> <tr> <td>28.1%</td> <td>26.7%</td> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5.8%</td> <td>7.1%</td> </tr> </table>	大分市	全国	※無解答率		28.1%	26.7%	大分市	全国			5.8%	7.1%
大分市	全国																	
59.7%	48.6%																	
大分市	全国	※無解答率																
28.1%	26.7%	大分市	全国															
		5.8%	7.1%															

【今年度の誤答の傾向】

- ・グラフから分かる「雑草の量が増え続ける」という学校の米作りの問題点を書くことができていない。（誤答例「農家も雑草が生えています」）
- ・グラフやカードのいずれかの情報を用いて、自分の考えを書いている児童は多いが、グラフを含めた3つの情報（**複数の情報**）を用いて、学校の米作りの問題点とその解決方法について書くという条件を満たして書き表すことができていない。また、学校の米作りの問題点について、グラフとカードのそれぞれから分かることを書いたとしても、その情報が原因と結果という関係であることを見だし、結び付けて書くことができていない。

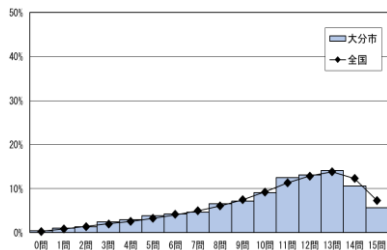
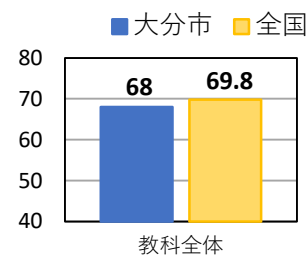
【指導に当たって】

- ・伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフを作成するとよいか、児童に考えさせる必要がある。
- ・【知識及び技能】の「情報と情報との関係」の指導事項との関連を図り、**単一の情報**のみに基づくのではなく、**複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討すること**を指導する必要がある。（3.4年は「考えとそれを支える理由や事例」「全体と中心」などの情報と情報の関係。5.6年は、原因と結果などの情報と情報との関係【今回の学力調査問題は原因と結果】）

平均正答率（％）

正答数の度数分布

過去3年間の内容別平均正答率（％）



学習指導要領の内容			言葉の特徴や使い方に関する事項			情報の扱い方に関する事項			我が国の言語文化に関する事項			話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと		
実施年度・学年等	実施主体	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	
R3	中1 市	68.3	64.2	4.1	50.7	47.7	3.0	63.4	59.0	4.4	68.8	66.8	2.0	61.7	57.6	4.1	61.3	59.4	1.9	
R4	中2 県	76.1	73.5	2.6	47.0	47.6	-0.6	91.9	89.2	2.7	63.7	62.4	1.3	67.2	62.8	4.4	61.8	61.1	0.7	
R5	中3 国	64.4	67.5	-3.1	61.2	63.4	-2.2	76.0	74.7	1.3	81.3	82.2	-0.9	59.7	63.2	-3.5	61.5	63.7	-2.2	

問題作成の趣旨（文部科学省作成資料より）

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。

課題が見られる問題について

領域	評価の観点			問題形式		
	知・技	思・判・表	態度	選択式	短答式	記述式
書くこと		○				○

◆根拠を明確にして書くこと

実施学年等	中学校第1学年次（R3実施）	中学校第3学年次（R5実施）※今回												
出題の趣旨	根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。												
実際の問題（一部）及び正答率	<p>美化委員である生徒が、地域の美化活動について全校に報告するための文章を書いているという設定のもと、報告文の中の「今後の対応」について、3つの条件に沿って書くという問題。</p> <p>条件1：委員の考えのつぶやきをもとに書くこと。 条件2：資料から読み取ったことを数値を挙げて書くこと。 条件3：資料から読み取ったことの改善策を具体的に考えて書くこと。</p> <p>※字数制限はない。</p> <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>34.2%</td> <td>37.7%</td> </tr> </table>	大分市	全国	34.2%	37.7%	<p>国語の時間に、絵から連想される言葉を当てるクイズである「判じ絵」を通して言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめているという設定のもと、レポートにある「判じ絵」の解説の説明を参考にして、新たに別の「判じ絵」の解説の説明を書き加えるという問題。</p> <p>※左の「判じ絵」の解説 A：さら（さくらの真ん中「く」を消す） B：なす（すなを逆さまにする）</p> <p>正答の条件としては、次の3つが挙げられる。 条件1：AとBの「判じ絵」から、1つ選んでいる。 条件2：「図3は」というレポートの中に、適切に続くように書いている。 条件3：選んだ「判じ絵」について、解説の仕方を書いている。</p> <p>※無解答率</p> <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>68.1%</td> <td>72.1%</td> <td>12.9%</td> <td>10.2%</td> </tr> </table> <p>※字数制限はない。</p>	大分市	全国	大分市	全国	68.1%	72.1%	12.9%	10.2%
大分市	全国													
34.2%	37.7%													
大分市	全国	大分市	全国											
68.1%	72.1%	12.9%	10.2%											

【今年度の誤答の傾向】

- ・条件3の解説の仕方を書いておらず、解説の根拠を示していない生徒…11.8% →相手意識をもって根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫できていない。
- ・この問題は、字数に関して条件がないが、無解答率が全国よりも2.7%高い。字数の多さに限らず、書くことに対する抵抗感があると考えられる。

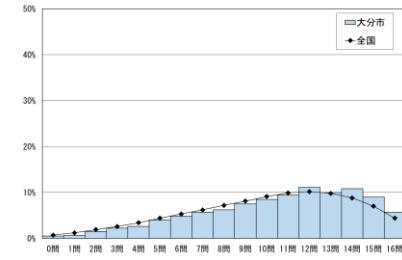
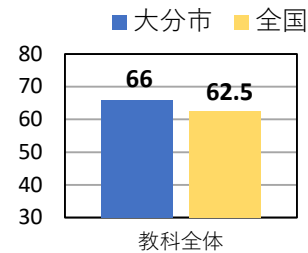
【指導に当たって】

- ・文章を書く際に、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを吟味した上で、根拠として文章の中に記述するように、文章の構成を考えさせる必要がある。
- ・書くこと オ「根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと」についても、ペアやグループ活動等を通して併せて指導することがより効果的である。

平均正答率（％）

正答数の度数分布

過去3年間の領域別平均正答率（％）



学習指導要領の領域			数と計算			図形			測定			変化と関係			データの活用		
実施年度	学年	実施主体	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差
R3	小4	市	74.3	68.7	5.6	68.3	64.3	4.0	-	-	-	80.7	78.6	2.1	72.3	64.7	7.6
R4	小5	県	71.7	65.2	6.5	65.6	58.7	6.9	-	-	-	73.3	66.4	6.9	60.7	52.3	8.4
R5	小6	国	70.0	67.3	2.7	54.4	48.2	6.2	-	-	-	72.1	70.9	1.2	68.6	65.5	3.1

問題作成の趣旨（文部科学省作成資料より）

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。

課題が見られる問題について

◆ 図形の構成の仕方を観察して図形について判断すること

領域	評価の観点		問題形式			
	知・技	思・判・表	態度	選択式	短答式	記述式
図形	○				○	

◆ 目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったり捉えたりすること

領域	評価の観点		問題形式			
	知・技	思・判・表	態度	選択式	短答式	記述式
データの活用		○				○

実施学年等	小学校第4学年次 (R3実施)	小学校第6学年次 (R5実施) ※今回												
出題の趣旨	ひし形の特徴について理解している	正三角形の意味や性質について理解している												
実際の問題（一部）及び正答率	<p>※著作権の関係で掲載不可</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>32.7%</td> <td>29.3%</td> </tr> </table>		大分市	全国	正答率	32.7%	29.3%	<p>ゆいな</p> <p>私は、④の角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。</p> <p>ケ</p> <p>ケ</p> <p>ケ</p> <p>コ サ</p> <p>二等辺三角形</p> <p>わたる</p> <p>私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。</p> <p>切って開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にすればよいですか。</p> <p>答えを書きましょう。</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>24.3%</td> <td>24.9%</td> </tr> </table>		大分市	全国	正答率	24.3%	24.9%
	大分市	全国												
正答率	32.7%	29.3%												
	大分市	全国												
正答率	24.3%	24.9%												

【今年度の誤答の傾向】

60度と回答している児童…33.8% → 切って開く前の角であることに着目できず、正三角形の一つの角の大きさを解答している。

【指導に当たって】

- 図形を作ったり分解したり、作図したりする活動では、辺や角等の図形を構成する要素に着目して考えるようにする。その際、目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることが必要である。
- 図形領域の正答率は、他の領域と比較して低くなることが多い。授業においては、観察や構成などの活動を通して既習の図形の性質を想起させたり、図形の意味や性質について考察させたりすることが重要である。

実施学年等	小学校第5学年次 (R4実施)	小学校第6学年次 (R5実施) ※今回																		
出題の趣旨	二次元の表を分析し結論を見いだすとともに、求め方を説明する	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する																		
実際の問題（一部）及び正答率	<p>※著作権の関係で掲載不可</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>25.0%</td> <td>17.6%</td> </tr> <tr> <td>無解答率</td> <td>13.8%</td> <td>—</td> </tr> </table>		大分市	全国	正答率	25.0%	17.6%	無解答率	13.8%	—	<p>【「0日」についてまとめたこと】</p> <p>「0日」に着目すると、次のようなちがひがあります。 6年生のグラフでは「0日」の人数が1番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が3番目に多いです。</p> <p>【「0日」についてまとめたこと】と同じように、「1日」に着目してまとめると、どのようになりますか。 下の□の中に、「6年生のグラフ」、「5年生と6年生を合わせたグラフ」、「3日目」の3つの言葉と数を使って書きましょう。</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>60.3%</td> <td>56.2%</td> </tr> <tr> <td>無解答率</td> <td>11.5%</td> <td>13.8%</td> </tr> </table>		大分市	全国	正答率	60.3%	56.2%	無解答率	11.5%	13.8%
	大分市	全国																		
正答率	25.0%	17.6%																		
無解答率	13.8%	—																		
	大分市	全国																		
正答率	60.3%	56.2%																		
無解答率	11.5%	13.8%																		

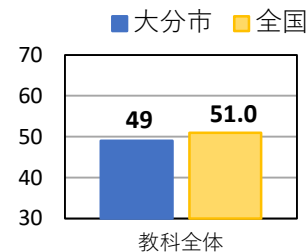
【今年度の誤答の傾向】

無回答の児童…11.5%（全国13.8%） → データの特徴や傾向について、読み取ったり捉えたりしたことを表現することに課題がある。

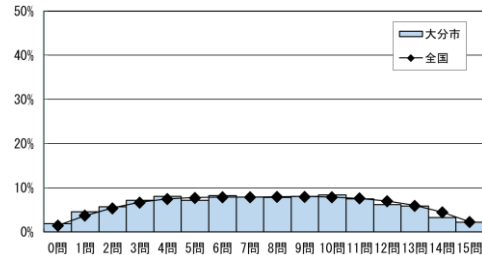
【指導に当たって】

- 複数のグラフを比べて見いだしたことを他者に分かりやすく表現できるようにする。その際、グラフのどの部分から考えたのかを説明させることが必要である。
- 同じグラフを異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較させたり、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読ませたりすることにより、棒グラフの表し方を変えることで比べやすくなったり分かりやすくなったりすることに気付くようにすることが重要である。

平均正答率（％）



正答数の度数分布



過去3年間の領域別平均正答率（％）

学習指導要領の領域			数と式			図形			関数			データの活用			
実施年度・学年等	年度	学年	実施主体	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差
	R3	中1	市	59.2	55.5	3.7	75.4	73.5	1.9	54.2	53.0	1.2	-	-	-
	R4	中2	県	72.0	66.7	5.3	58.3	56.4	1.9	58.1	54.1	4.0	51.2	47.6	3.6
	R5	中3	国	61.0	63.0	-2.0	29.6	33.2	-3.6	50.1	51.2	-1.1	49.1	48.5	0.6

問題作成の趣旨（文部科学省作成資料より）

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。

課題が見られる問題について

領域	評価の観点			問題形式		
	知・技	思考・表現	態度	選択式	短答式	記述式
数と式	○			○		

◆事柄が成り立つことを根拠に基づいて証明すること

領域	評価の観点			問題形式		
	知・技	思考・表現	態度	選択式	短答式	記述式
図形		○				○

実施学年等	中学校第1学年次 (R3実施)	中学校第3学年次 (R5実施) ※今回								
出題の趣旨	絶対値について理解している。	自然数について理解している。								
実際の問題（一部）及び正答率	※著作権の関係で掲載不可 <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>89.8%</td> <td>87.9%</td> </tr> </table>	大分市	全国	89.8%	87.9%	1 下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。 ア -5 イ 0 ウ 3 エ 4.7 オ 9 <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>40.9%</td> <td>46.1%</td> </tr> </table>	大分市	全国	40.9%	46.1%
大分市	全国									
89.8%	87.9%									
大分市	全国									
40.9%	46.1%									

実施学年等	中学校第2学年次 (R4実施)	中学校第3学年次 (R5実施) ※今回																
出題の趣旨	模様どうしの関係を、回転移動を用いて説明することができる。	2つの直線が平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを用いて証明することができる。																
実際の問題（一部）及び正答率	※著作権の関係で掲載不可 <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>28.6%</td> <td>34.0%</td> </tr> <tr> <th>無解答率</th> <th></th> </tr> <tr> <td>27.7%</td> <td>-</td> </tr> </table>	大分市	全国	28.6%	34.0%	無解答率		27.7%	-	(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の△ABCと△CEAは、それぞれCA=CB、AC=AEで、△ABC≡△CEAです。 図6において、BC//AEであることは、すでにわかっている△ABC≡△CEAをもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。BC//AEであることを証明しなさい。 <table border="1"> <tr> <th>大分市</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>26.4%</td> <td>32.1%</td> </tr> <tr> <th>無解答率</th> <th></th> </tr> <tr> <td>29.0%</td> <td>24.7%</td> </tr> </table>	大分市	全国	26.4%	32.1%	無解答率		29.0%	24.7%
大分市	全国																	
28.6%	34.0%																	
無解答率																		
27.7%	-																	
大分市	全国																	
26.4%	32.1%																	
無解答率																		
29.0%	24.7%																	

【今年度の誤答の傾向】

イ・ウ・オを選択している生徒…33.2% → 自然数の意味の理解に課題がある。（自然数に0が含まれると捉えている）

【今年度の誤答の傾向】

無回答の生徒…29.0%（全国24.7%） → 記述式の問題の無回答率が高く、「根拠」と「成り立つ事柄」を関連付けて表現することに課題がある。

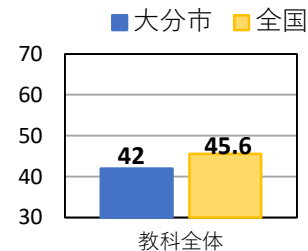
【指導に当たって】

- 数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れる。その際、0は整数に含まれるが、自然数には含まれないことを確認することが必要である。
- 他の領域についても、知識・技能を問う選択式・短答式の問題において、正答率が低い状況も見られることから、授業で既習の振り返りをしたり、家庭学習等においてプリント学習で繰り返し復習したりするなど、定着の状況を把握する取組を工夫することが必要である。

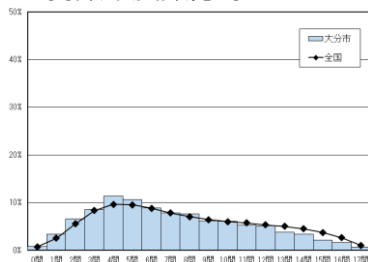
【指導に当たって】

- 小学校で学習した同位角や平行線の性質について振り返りながら、図形の観察や操作（ICT機器の活用を含む）を通し、基本的な図形の性質（同位角や錯角が等しいとき平行になるなど）を根拠として、事柄が成り立つことを確かめたり、理由を説明し合ったりする活動を行うことが必要である。
- 短答式の練習問題においても、単に角の大きさを求めることのみで終わることなく、根拠（角の大きさを求める過程で用いられている図形の性質や関係）を明らかにして説明することが大切である。

平均正答率（％）



正答数の度数分布



過去3年間の領域別平均正答率（％）

学習指導要領の領域			聞くこと			読むこと			話すこと(やり取り)			話すこと(発表)			書くこと		
実施年度	学年	実施主体	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差	大分市	全国	差
R3	中1	市	58.0	58.9	-0.9	59.3	57.4	1.9	-	-	-	-	-	-	59.4	50.8	8.6
R4	中2	県	52.0	54.2	-2.2	59.8	59.4	0.4	-	-	-	-	-	-	52.0	50.7	1.3
R5	中3	国	54.1	58.4	-4.3	48.3	51.2	-2.9	10.0	14.5	-4.5	3.7	4.2	-0.5	19.4	23.4	-4.0

問題作成の趣旨（文部科学省作成資料より）

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「知識及び技能」を測ることに加え、それらをコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて活用できる「思考力、判断力、表現力等」を測ることを重視した。

課題が見られる問題について

◆英文の要点を聞き取ること

領域	評価の観点			問題形式		
	知・技	思・判・表	態度	選択式	短答式	記述式
聞くこと		○		○		

実施学年等	中学校第2学年次 (R4実施)	中学校第3学年次 (R5実施) ※今回								
出題の趣旨	英文の要点を聞き取ることができる。	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる。								
実際の問題（一部）及び正答率	※著作権の関係で掲載不可 <table border="1"> <tr><th>大分市</th><th>全国</th></tr> <tr><td>48.8%</td><td>50.9%</td></tr> </table>	大分市	全国	48.8%	50.9%	※右参照 <table border="1"> <tr><th>大分市</th><th>全国</th></tr> <tr><td>50.2%</td><td>54.8%</td></tr> </table>	大分市	全国	50.2%	54.8%
大分市	全国									
48.8%	50.9%									
大分市	全国									
50.2%	54.8%									

【今年度の誤答の傾向】

1 (14.9%) 2 (50.2%) 3 (14.3%) 4 (19.8%) 無回答 (0.8%)

→話し手が伝えようとする最も重要なことは何であるかを判断して捉えることに課題がある。

【指導に当たって】

- 聞いた後に何をすべきか、目的をもって英語を聞くことを日常的に行うことが必要。
- できるだけ1回で聞き取れるよう指導するが、複数回聞く必要がある場合は、「話の大まかな内容は何か」、「話し手が最も伝えたいことは何か」など、その都度異なる視点を与えて聞かせることが大切。
- A L Tの話す英語を聞いたり、一人1台端末を利用したりして、自然な口調で話される英語に慣れるように指導することも大切。
- 一人1台端末等を用いて音声の速度を変えて英語を聞いたり、音のつながりや音の変化の指導を行ったりすることも考えられる。

4 (放送問題)

あなたのクラスは、シンガポールにある姉妹校の生徒たちと、オンラインで地域の課題について意見交換をしています。これから、姉妹校の生徒であるジェニーの話を聞くところです。ジェニーが最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- There isn't enough water in Singapore.
- Doing something to save water is important.
- I take showers for only five minutes each time.
- One of my friends uses rain water for the plants in his room.

(スクリプト)

Hi, I'm Jenny. Today, I'm going to share our ideas about a water problem in our country. There isn't enough water in Singapore. My classmates and I talked about this problem at school. We all said, "We cannot do something big, but doing something to save water is important for even junior high school students." For example, I take showers for only five minutes each time. Also, I turn off the water when I brush my teeth. One of my friends uses rain water for the plants in his room. We are all trying to do something to save water. What do you think?

○関心・意欲・態度(国語、算数) 【児童質問紙 質問番号:43・45・51・53】

国語について、「好きですか」「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は、61.8%、87.0%で全国平均を上回っている。また、算数について、「好きですか」「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は、61.2%、81.6%で概ね全国平均と同等である。今後とも児童が学習に興味や関心がもてる教材の工夫や授業づくりの改善を行うとともに、習熟度別指導や少人数指導、個別指導等、個に応じた指導の一層の充実が必要である。

○学習時間等 【児童質問紙 質問番号:16・17・20】

家庭での平日の学習時間は、1時間以上が67.4%で全国平均を大きく上回っている。自分で計画を立てて勉強している児童の割合は74.7%であり、全国平均を上回っている。また、読書について、授業時間以外の平日の読書時間が1時間以上の割合は、22.1%で全国平均を上回っているが、読書を「全くしない」と回答している児童の割合が22.0%であることから、引き続き、学校図書館等を活用し、読書の楽しさを伝えることが必要である。

○学校生活 【児童質問紙 質問番号:12・14】

「学校に行くのは楽しいと思えますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は86.3%と高く、全国平均を上回っている。また、「友達関係に満足していますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は90.7%であり、全国平均を上回っており、学校生活の充実が窺える。今後も、児童にとって充実した学校行事や学級活動になるよう努めることが必要である。

○基本的な生活習慣、社会に対する興味・関心 【児童質問紙 質問番号:2・3・25】

基本的な生活習慣については、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は91.9%と全国平均の90.5%を上回っており、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対しても、肯定的に回答した児童の割合は82.4%と全国平均の81%を上回っている。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対しては、肯定的に回答した児童の割合は57.9%であり、概ね全国平均と同等である。今後も、学校、家庭、地域社会が一層連携・協力して、子どもの基本的な生活習慣の確立に努めることが必要である。

○自尊感情、規範意識 【児童質問紙 質問番号:4・7・9・11】

「自分には、よいところがあると思えますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は84.6%、「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は82.1%と全国平均を上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思えますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は95.8%と概ね全国平均と同等である。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対しては、97.5%であり、全国平均を上回っている。今後とも、学校・家庭・地域社会の連携を図りつつ、道徳教育に係る学校や学年の指導の重点の明確化、道徳ハンドブック(改訂版)を活用した指導の充実、体験活動の推進など、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて豊かな人間性や社会性を育む道徳教育の一層の充実を努めることが必要である。

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり 【児童質問紙 質問番号:33・36】

「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は79.3%と全国平均を上回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は80.6%と、昨年度の結果を上回っているものの本年度も全国平均を下回っている。今後は、質の高い授業の創造に向け、本市作成の授業力向上ハンドブック等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めることが必要である。

○校種間連携、社会に開かれた教育課程 【学校質問紙 質問番号:67・68・69・71】

小学校と中学校の連携について、「前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか」の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は87.3%と全国平均の58.2%を大きく上回っている。同様に、「教育課程における目標設定等の共通の取組」や「全国学力・学習状況調査の成果や課題等の分析結果の共有」についての質問も肯定的な回答が90.9%、69.1%と、全国平均を大きく上回っている。小中一貫教育の取組の成果が表れている。今後も、子どもたちの心身の発達や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差の軽減を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し、「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育の推進を図る必要がある。また、「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、81.8%と全国の86.7%を下回っていることから、教育課程の趣旨や目指す子ども像について保護者懇談会や学校運営協議会等において家庭や地域と共有し、学校や地域の実情を踏まえた特色ある教育課程となるよう見直し、改善するなど、より一層「社会に開かれた教育課程」の実現に努めることが必要である。

○授業におけるタブレットの使用 【児童質問紙 質問番号:29・30】

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思えますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は96.8%で全国を上回っている。しかし、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対しては、週3回以上が55.4%で全国の62.4%を下回っている。今後は授業における更なるICT機器の活用を進め、個に応じた学習の充実を図っていく必要がある。

○関心・意欲・態度(国語, 数学, 英語) 【生徒質問紙 質問番号:47・49・55・57・59・61】

国語, 数学, 英語の各教科について、「好きですか」の質問に対して, 肯定的に回答した生徒の割合は国語が全国平均を下回っている。「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対して, 肯定的に回答した生徒の割合は3教科とも全国平均を下回っている。今後は, 生徒が学習に興味や関心がもてる教材の工夫や授業の改善を行うとともに, 習熟度別指導や少人数指導, 個別指導等を通して, 個に応じた指導の充実が必要である。

○学習時間等 【生徒質問紙 質問番号:16・17・20】

家庭での平日の学習時間は, 平日1時間以上が83. 2%で全国平均を大きく上回っているが, 昨年より3%減少している。家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合は56. 4%であり, 全国平均を上回っている。また, 読書については, 授業時間以外の平日の読書時間は概ね全国平均であるが, 読書を「全くしない」と回答している生徒が44. 9%で, これは全国平均より8. 1%下回っている。引き続き, 学校図書館等を活用し, 読書の楽しさを伝えることが必要である。

○学校生活 【生徒質問紙 質問番号:12・14】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して, 肯定的に回答した生徒の割合は83. 9%, 「友達関係に満足していますか」の質問に対して, 肯定的な回答をした生徒の割合は90. 0%と全国平均を上回っており, 学校生活の充実が窺える。今後も, 生徒にとって充実した学校行事や学級活動になるよう努めることが必要である。

○基本的な生活習慣, 社会に対する興味・関心 【生徒質問紙 質問番号:2・3・30】

基本的な生活習慣については, 「毎日, 同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対して, 肯定的に回答した生徒の割合は78. 6%, 「毎日, 同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は93. 5%と概ね全国平均となっている。また, 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対しては, 肯定的な回答をした生徒の割合は62. 3%で全国平均を下回っている。今後は, 学校, 家庭, 地域社会が一層連携・協力して, 生徒の基本的な生活習慣の確立及び社会に対する興味・関心の向上に努めることが必要である。

○自尊感情, 規範意識 【生徒質問紙 質問番号:4・7・9・11】

「自分には, よいところがあると思いますか」の質問に対して, 肯定的な回答をした生徒の割合は81. 2%と, 全国平均を上回っている。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して, 肯定的な回答をした生徒の割合は66. 8%, また, 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対しても, 肯定的な回答をした生徒の割合は95. 2%と, どちらも概ね全国平均となっている。「いじめは, どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して, 肯定的に回答した生徒の割合は, 97. 6%と全国平均を上回っている。今後はとも学校・家庭・地域社会の連携を図りつつ, 道徳教育に係る学校や学年の指導の重点の明確化, 教材の充実, 体験活動の推進等, 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて豊かな人間性や社会性を育む道徳教育の一層の充実が努めることが必要である。

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり 【生徒質問紙 質問番号:36・37】

「1, 2年生のときに受けた授業では, 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいましたか」の質問に対して, 肯定的な回答をした生徒の割合は78. 6%と全国平均の79. 2%を下回っている。「1, 2年生のときに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文書, 話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に対しても, 肯定的な回答をした生徒の割合は53. 8%と全国平均の62. 1%を下回っている。今後は, 質の高い授業の創造に向け, 本市作成の授業力向上ハンドブック等を活用し, 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めることが必要である。

○校種間連携, 社会に開かれた教育課程 【学校質問紙 質問番号:75・76・77・79】

小学校と中学校の連携について, 「前年度までに, 近隣等の小学校と授業研究を行うなど, 合同して研修を行いましたか」の質問に対して, 肯定的な回答をした学校の割合は96. 5%(昨年75. 0%)と全国平均の67. 3%を大きく上回っている。同様に, 「教育課程における目標設定等の共通の取組」や「全国学力・学習状況調査の成果や課題等の分析結果の共有」についての質問も全国平均を大きく上回っていることから, 小中一貫教育の取組の成果が確実に表れている。今後はとも, 子どもたちの心身の発達や生徒指導上の諸問題, 学力形成上の特質の違い等による小中の段差の軽減を図り, 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し「生きる力」を育む上から, 義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育の推進を図る必要がある。また, 「教育課程の趣旨について, 家族や地域との共有を図る取組を行っていますか」の質問では, 全国平均の83. 2%に対し, 本市は67. 9%と下回っていることから, より一層「社会に開かれた教育課程」の実現に努めることが必要である。

○授業におけるタブレットの使用 【生徒質問紙 質問番号:33・34】

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対して, 肯定的な回答をした生徒の割合は95. 3%で全国を上回っている。しかし, 「1, 2年生のときに受けた授業で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使用しましたか」の質問に対しては, 週3回以上が60. 6%で全国平均を下回っている。今後は「授業中に自分で調べる場面」「学級の生徒と意見を交換する場面」「自分の考えをまとめ発表する場面」における更なるICT機器の活用と, 個に応じた学習の対応等を進めていく必要がある。